

●各部の名称と操作方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

この度は TATULA TW ベイトキャスティングリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、力強く滑らかな回転が持続する設計思想「HYPERDRIVE DESIGN」を採用しています。更にTWSとの相乗効果により、この製品は、バス～ソルトまで快適なルアーフィッシングを楽しんでいただけます。このリールを正しくご使用頂くために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。



HYPERRIVE DESIGN

TATULA TW

200H/200XH/200HL/200XHL

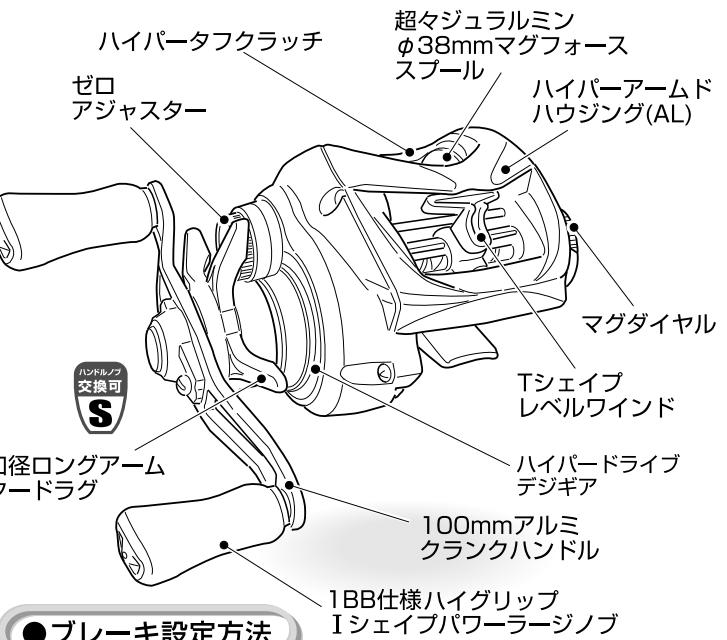
取扱説明書

●安全上の注意

- ①糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をするおそれがあります。
- ②糸が勢いよく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切るおそれがあります。
- ③糸が勢いよく出ている時は、スプールの上に指を置かないようにご注意ください。火傷や、指をはさんで怪我をするおそれがあります。
- ④キャスティングの時にはクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をするおそれがあります。
- ⑤ハンドルとボディの隙間に指・衣服等が挟まるると大変危険です。怪我をするおそれがありますので、取扱いには十分注意してください。
- ⑥リールはリールシートにしっかりと固定してご使用ください。ガタつきがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我をするおそれがあります。
- ⑦乳幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながるおそれがあります。

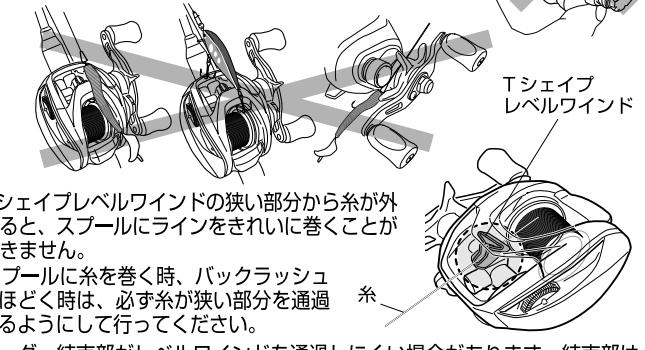
●安全上・ご使用上の注意

- ①本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
- ②本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損するおそれがあります。
- ③根掛かりした時は、無理に竿をあおると糸を棒状の物に巻き付け、引っ張って切るようにしてください。竿をあおると、竿折れの原因になります。
- ④落し等の強い衝撃がかかると、破損する場合があります。また、竿に装着した状態での落等、竿尻に衝撃がかかった場合にも、リールの脚部が破損するおそれがありますので十分ご注意ください。
- ⑤リールのワンウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をするおそれがあります。
- ⑥ドラグ付きリールで投げる際には、ドラグが滑るとして指を傷つけるおそれがあります。必ずドラグをよく締めて付けてから投げるようにしてください。
- ⑦ドラグを長時間連続使用すると、ドラグ吸納部が熱くなり火傷をするおそれがあります。
- ⑧クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。ライジングロッドの状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。
- ⑨リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないようにご注意ください。
- ⑩使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻糸量、巻糸状態に差異が生じることがあります。
- ⑪塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥がれた場合は、その部分に触れないでください。怪我をするおそれがあります。
- ⑫シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、ご使用にならないでください。また、上記が手についたまま本機を扱うこともあやめください。本機の表面が変質したり塗装が剥げたりするおそれがあります。
- ⑬弊社純正部品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正部品以外の部品を取り付けられたまでの修理は場合によってはお断りせざるを得ない場合がございますのであらかじめ了承ください。
- ⑭製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

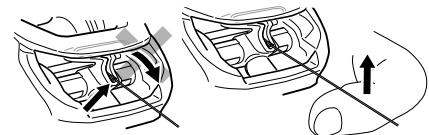


●取扱い・保管上の注意

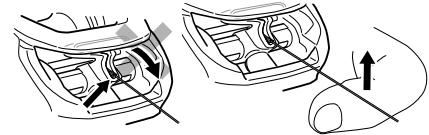
- ・スプールを取り外した状態でハンドルを回転させたり、クラッチを作動させたりしないでください。ギアが傷ついてしまいます。
- ・ラインガイドを手で無理に動かさないでください。破損のおそれがあります。
- ・ルアーウームをリールに引っ掛けるのはおやめください。リールを傷つけたり、糸が傷ついたり、ワームの成分によってはリールの塗装がはがれたりすることがあります。



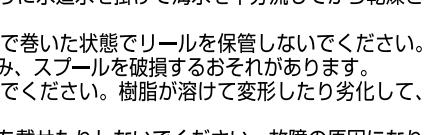
- ・Tシェイプレベルワインドの狭い部分から糸が外れると、スプールにラインをきれいに巻くことができません。
- ※スプールに糸を巻く時、バックラッシュをほどく時は、必ず糸が狭い部分を通過するようにして行ってください。
- ・リーダー結束部がレベルワインドを通過しにくい場合があります。結束部はロッドのガイドより外側に出すことをおすすめいたします。



- ・糸を巻く際は、リール本体に糸が触れないようにご注意ください。フロントカバーやフレームに糸が当たると、糸やリール本体が傷つくおそれがあります。
- ・最大ドラグ力の範囲内の使用をおすすめします。過度なドラグを掛けた状態での使用は、このリールの適正使用条件を強度的に大きく超えますのでやめください。
- ・輸送時に強い負荷等がかかると、ハンドル等の部品が変形するおそれがあります。梱包状態や取り扱いには十分ご注意ください。
- ・保管の際は必ず竿から取り外してください。
- ・リールを長期間(数ヶ月以上)ご使用にならない時は、リール作動部を時々動かすことをおすすめいたします。



- ・ドラグ付きリールは、釣行後にドラグを緩めて保管してください。ドラグをきつく締めたまま保管すると、ドラグワッシャーが潰れ、性能が低下します。
- ・通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されると腐食を起こす可能性があります。
- ・海水で道糸が湿った状態のままで保管するとスプールが腐食するおそれがあります。巻糸部にあたるように水道水を掛け海水を十分流してから乾燥させてください。

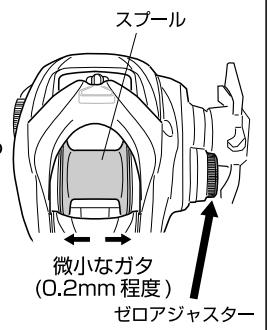


- ・海水を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールを破損するおそれがあります。
- ・発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。
- ・リールの上に乗せたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。
- ・海水の中に長時間放置しないでください。
- ・釣り餌が付着した状態で長時間放置しないでください。
- ・根掛かりした時に、スプールを指で押さえつけた状態で糸を切ることはやめください。スプール変形の原因になります。
- ・エラストマーべースのルアーがリールに接触すると、塗装や樹脂部品が損傷するおそれがあります。

●ブレーキ設定方法

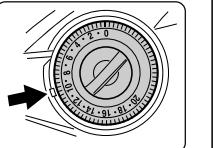
●はじめに“ゼロアジャスター”を調整し、“スプールガタ ゼロ”設定を実施してください。

- ・“ゼロアジャスター”は、釣りを開始する前に“ゼロ設定”に調整することで、釣りの間に誤作動が起こることなく、快適に釣りを楽しんで頂くための機構です。
- ・“スプールガタ ゼロ”設定とは、スプールを押さないギリギリの設定ことで、微小なガタつき(0.2mm程度)を残した状態のことです。
- ・本リールは、出荷段階でスプールポジションを“ゼロ設定”にセットして出荷させていただいております。
- ※クラッチを切った状態でスプールを挟み上下に2つの指でしっかりと握ると、ガタつきの状態が把握しやすくなります。
- ・“ゼロアジャスター”は、時計回りで締まり、反時計回りで緩みます。



●マグネットブレーキの進化により全てのルアーをマグダイヤルのみで制御することが可能です。

- ・“スプールガタ ゼロ”の設定で、マグダイヤルの目盛りに委ねてください。
- ・数値が大きいとブレーキ力は大きくなり、数値を下げるほどブレーキ力も小さくなります。
- ・慣れるまでは

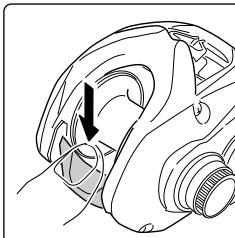


- ①マグダイヤルの目盛りを最大にしてお使いください。
- ②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げて行きます。
- ・バックラッシュ気味になる一つ前の目盛りか、その時の条件に合った最適なセッティングです。
- ③半分以下(目盛り10)の数値のゾーンまで下げていく場合は、必ずひと目盛りずつ下げます。
- ※マグダイヤルの数値が小さいと、ブレーキ力はかなり微小です。
- ・いきなり下げすぎるとバックラッシュが発生しますので充分ご注意ください。
- ※もちろん、サミングを併用することで更にブレーキを落とす(より小さい目盛りで使う)ことが可能です。
- ※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じた時に、ゼロアジャスターを少し締めてお使いいただくと、補助ブレーキの役割を果たします。

●注意

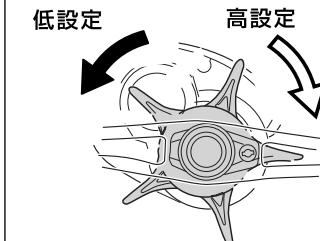
- ・ゼロアジャスターを“ゼロ”より締めて使うと、本リールが有している“高レスポンスなスプール性能”を損ね、飛距離ダウンや、フィネス性能の低下が発生します。
- ・また、更に締め込みすぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が発生するケースがあります。
- ・一方で、“スプールガタ ゼロ”状態より大きく緩んだ状態で使用すると、キャスト時のスプールの振れが大きくなる為に、リール本来のマグネットブレーキの性能が不安定になり、ノイズの発生のみならず、飛距離ダウンやバックラッシュ発生の原因となります。更に緩めすぎた状態では、スプールとフレームが干渉し、傷を発生させてしまいます。
- ・本リールの持つ性能をフルに発揮させる為にも“スプールガタ ゼロ”設定でご使用いただくことを強くお勧め致します。緩めすぎや締め過ぎはお勧めできません。

●ハイパーテクランチ



- 親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。
- 親指でクラッチとスプールを同時に押さえることができる所以、すばやくキャストできます。

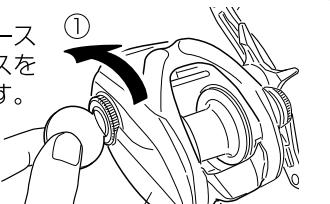
●ドラグ調整方法 (※図は右ハンドルモデルです。)



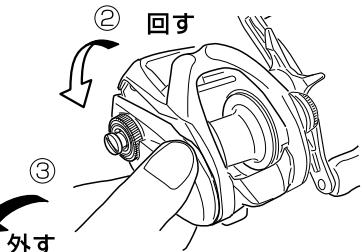
- 右ハンドルモデルの場合、時計回りに回せばドラグ設定は高くなり、反時計回りに回せばドラグ設定は低くなります。(左ハンドルモデルは逆になります) 使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。

●スプールの交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

- 1 サイドプレート上のマグフォース調整ダイヤルの中心にあるビスを反時計回りに回し、ゆるめます。(ビスは脱落防止のため、完全にはぬけないようになっています。)

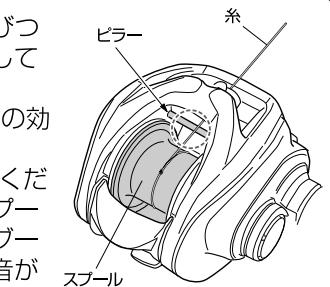


- 2 図のようにサイドプレートを下方向に回転させ外してください。



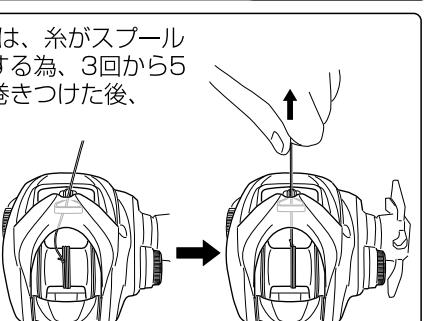
●スプールへの糸の結び方

- 図のようにスプールに糸を結びつけます。糸はピラーの上を通してください。



●スプールにPEラインを巻きはじめる時の結び方

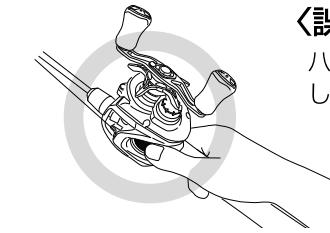
- PEライン使用に際しては、糸がスプールから空転するのを防止する為、3回から5回程、糸をスプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。また、結び付けた後、強く引張っても糸がスプールから空転しないことを確認した後、巻き始めください。



●キャスト時の注意 (※図は右ハンドルモデルです。)

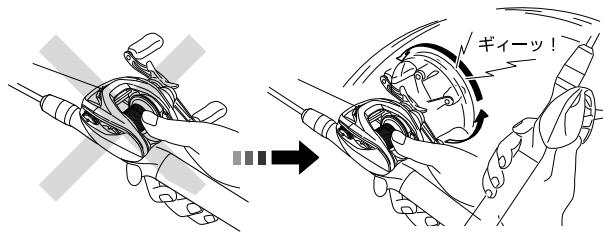
〈正しい握り方〉

ハンドルを上向き(もしくは下向き)にして握ります。



〈誤った握り方〉

ハンドルを横向きにしてしまうと…



※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが反ってしまうことがあります。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐようなもの。最悪ガアの破損のおそれもあります。絶対にお避けください。※また、キャスティング中にクラッチを戻さないと、ギアやボールベアリング等の

破損につながるおそれがあります。※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い(大きい)ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ反りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

●ハンドル交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

※ハンドルナットは左ハンドルの場合、逆ネジとなっておりますので特にご注意ください。

1 市販のドライバー(※)でスクリューを緩め(反時計回り)、ハンドルキャップを外します。

2 スタードラグを締め込み、市販のレンチ(※)を使い、反時計回りでハンドルナットを外します。

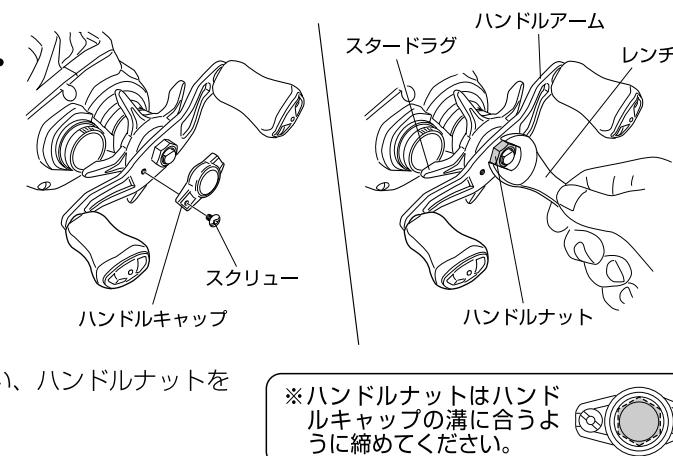
(※)ダイワRCSベイトキャスティングリール純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。

(※注意 左ハンドルは時計回りでハンドルナットを緩めます。)

3 ハンドルアームを外し、ハンドル交換を行ってください。レンチを使い、ハンドルナットを取り付けます。強めに時計回りに回して締め込んでください。

(※注意 左ハンドルは反時計回りに回して締め込んでください。)

4 ハンドルキャップを取り付け、市販のドライバーでスクリューを時計回りで締めてください。

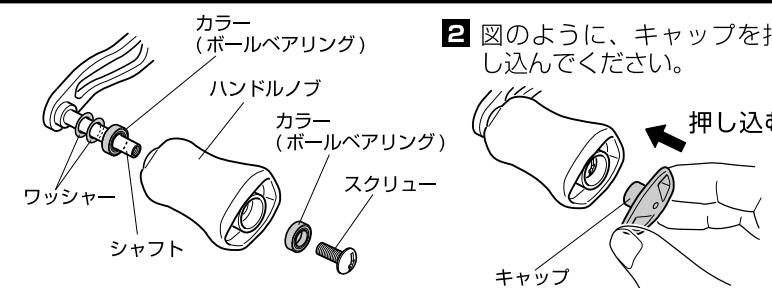


●ハンドルノブ取付方法

※Sサイズノブと互換性があります。

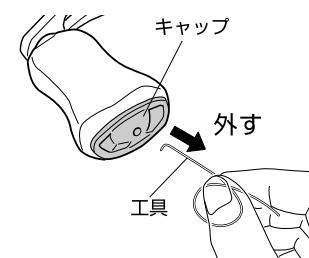
1 図のように、シャフトにワッシャー、カラー(ボールベアリング)を入れ、ノブを挿入し、残りのカラー(ボールベアリング)を入れます。スクリューを市販のプラスドライバーを使ってしっかりと締め込みます。2つ目のカラー(ボールベアリング)がノブに納まるよう、しっかりと入れてください。

※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。(追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるので注意ください。)



(キャップを外すときは)

『I型ノブ』の場合
ダイワ純正RCSオプショナルハンドルノブに同梱の工具を使用しキャップの穴に引っかけ外します。



『パート情報』

パート情報については
【ダイワパート検索システム】
よりご確認ください



『カスタムパート情報』

カスタムパート情報については
【製品対応検索システム】
よりご確認ください



●アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものです。万が一、故障が生じ修理が必要な場合はお買い求めの販売店、または右記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料) 携帯電話からもご利用できます

TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00~17:00
(土・日・祝祭日は除く)

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16

Printed in Thailand

●重要！お手入れ方法

●本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
●錆や塩分の固着によるトラブルを防止する為にも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間での使用により、初期性能は低下する可能性がございます。
●本製品を未永くお使い頂くためにも、年に1度は(株)スポーツライフプラネットヘオーバーホールに出すことをお薦めします。(有料)

●推奨オイル：ダイワ純正リールガードオイル REV ポールベアリング用オイル
●推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なうおそれがありますので、絶対におやめください。

順序

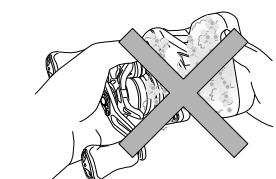
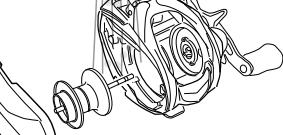
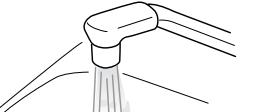
① 使用後には、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。

※特に海水域で使用したまま乾燥すると塩が結晶化てしまい、水洗いの効果が低下します。

・ドラグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドフレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。

・サイドフレート、スプール、本体いずれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。

※温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けているオイルやグリスを流出させてしまします。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対におやめください。



・本体のウォームシャフトやレベルワインド、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。

② 洗浄後は、3パーツを組立て、よく水を切って乾燥させてください。

・よく水を切るために、ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的です。

※海水で使用された後は、スプール外周部やフレーム内部などの水分をタオルなどでふき取ってください。乾いて塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。

・ドラグを緩め、水抜き穴を下にして陰干してください。また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。

※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。

・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。

※溶剤(シンナーなど)では手入れしないでください。

③ 以下の注油規定に則り、必ず注油してください。

④ 保管の際は、ドラグを緩めてください。

■ 注油規定

※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

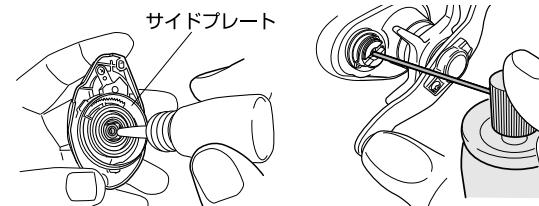
【スプール部ボールベアリングへの注油(オイル)】

1 サイドフレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。

2 ゼロアジャスターを取り外し、内側に見えるボールベアリングに注油します。

※つけすぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なうおそれがあります。

例えはボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレー油の場合は、一瞬吹き付ける程度で結構です。



【スプールシャフトへの注油(グリス)】

1 取り外したスプールのシャフト両端(→の箇所)に、グリスを付けます。イラストのように、一度、ビニールなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。

2 サイドフレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。

※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

3 ウォームシャフト部への注油(グリス)

1 図のようにウォームシャフト部へ注油します。

※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

4 ウォームシャフトの回転部に注油します。

※水抜き穴への注油は絶対におやめください。

※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。

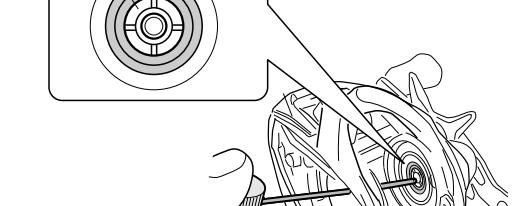
【ピニオン部ボールベアリングへの注油(オイル)】

1 スプールを取り外し、リール本体側のピニオンボールベアリングに注油します。

2 ゼロアジャスターを取り外し、内側に見えるボールベアリングに注油します。

※つけすぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なうおそれがあります。

例えはボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレー油の場合は、一瞬吹き付ける程度で結構です。



【ハンドルノブ、クラッチ、ラインガイド部への注油(グリス)】

1 図のようにハンドルノブへ注油します。

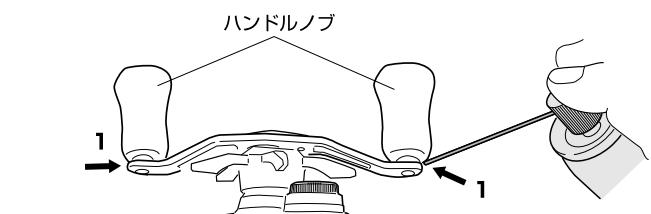
※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性がございます。ご注意ください。

2 図のようにクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。

※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。

※落としてショックを与える事で異音の発生や、スプールフリー性能が変わることがあります。お取扱いには充分にご注意ください。

※リールを長時間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かす事をお薦めします。



3 ラインガイドの両側の回転部に注油してください。

